



心のほこりを払い 心を澄み切らせよう

11月大教会教会長会議
立教187年11月22日
大教会長 片山幹太

本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321 (代)
本島通信編集室 R241124-1129-15
奈良県天理市指柳町270-1
本島詰所 〒632-0093
電話 0743-63-1571 (呼)
<https://www.honjima.com>
Email: webmaster@honjima.com
大教会 朝夕おつとめ時間
【11月1日～12月31日】
朝づとめ 午前6時45分
夕づとめ 午後6時00分

ひと言ご挨拶を申し上げます。

先月の本年秋季大祭における真柱様のお言葉を引用させて頂きます。

「そして、後半の活動に入ったところで、今度はまた正月と同じ能登の地が豪雨に見舞われて、大きな被害を受けたのであります。地震と大雨という、形は違えど、同じ所に二度も厳しい姿を見せられた。私は、これは私たちの年祭に対する取り組みが、思召にお応えするにはまだまだということなのだと思つたのであります。」

このお言葉から私は、人だすけ、心だすけがもつと出来るはずだと受け止めさせて頂きました。

三年千日も残すところ1年1ヶ月、今まで頑張ってきた上に、さらにもう少し、もう少しと強い意志をもって、勇み心を奮い起こして通らせて頂きたいと思ひます。

続く27日の天理教青年会総会では、

教会長夫妻おたすけ推進のつどい

日時 立教188年1月25日(土)午後1時より
場所 本島詰所4階講堂 参加御供 一人五〇〇円
対象 教会長及び教会長配偶者、直属教会長の認めた者

青年会会長様である大亮様から「心を澄ますために大事なこと」をお話し下さいました。そのお話で私は2つ

のことが心に留まりました。

一つ目は「待つ」ということです。

ついで、いろいろなことがありますが、待つことなくすぐに心が乱れる

ことがあると思います。反論したり、正論を言いたくなるかと思ひますが、

一回待つて相手の身にもなつてい

んな角度から捉える。そのために待つ。待つとほこりを被らないのでは

ないかというようなお話しをして下さいました。

私たちは普段、どんなときに腹を立ててしまうのか。それは「自分の

思い通りにならないとき」です。自分の思い通りになるのではなく、神

様の思い通りになっていくのがこの世界ですから、唯一つ自分のものだと教えられている心を澄ましていく

二つ目は「自分の心に矢印を向ける」です。

苦手な人、許せない人の言動を思いつくまま書き出し、その奥にある

であろう心遣いを書き出してみただ、自分の心に矢印を向けて「もし

かしたら自分と似ているところがあ

るかもしれない」と考えてみたら、意外と気づいていなかった自分のほ

こりがたくさん見つかるというお話でした。

年祭活動の最後の一年、私たちは心のほこりを払い、心を澄み切らせていくことで、強い意志や余裕が出てくると思ひます。

に、をいがけ、おたすけのチャンス

を逃さぬよう、来年は勇んだ話がどんどん現れてくるような一年にさせて頂きたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

心明るく通らせて頂きましょう。

(文責・本島通信編集室)

おつとめは、拍子と調子と 心を揃えてつとめよう

大教会役員 窪田靖明

本日は本島大教会11月の月次祭を大教会長様を芯に一手一つに勇んで勤めさせて頂きましたことを心からお慶び申し上げます。

祭典講話の御命を頂きましたので、只今から勤めさせて頂きます。よろしくお願いいたします。

教祖140年祭活動が始まった昨年1月、私どもの本新田分教会の春季大



祭を勤めさせて頂いた後、後継者で

ありました長男の卓夫夫婦が私のと

ころに來まして「30年間、会長とし

て勤めて頂き、ありがとうございます

です。この句に新たに会長として務め

させて頂きたい」と会長交代の申し出

がありました。

私としては教祖年祭活動が終わっ

てからを考えておりましたが、後継

者夫婦から申し出がありましたので

「これが旬なのかな」と思いを新たに

して、今後のことを話し合うことに

しました。

大教会長様とご相談の上、昨年8

月26日に任命のお運び、そして会長

就任奉告祭は11月12日に大教会長様

ご夫妻のお入り込みのもと執り行わ

せて頂きました。

奉告祭には中津支部長である今村

将文中津大教会長様、また本新田分

教会の世話人である原口実先生をは

じめ、ようぼく信者さん方や教友の

皆さま、親族など大勢ご参拝下さり、

ご真実を頂いて、陽気に勇んだ活気

あふれる奉告祭を勤めることができ

ました。ありがとうございます。

また今年の本新田分教会の青年会

分会委員長が、この1年間心定めと

して毎月22日の大教会月次祭前の祭

典準備や、様々なひのきしんに頑

張って帰参しています。私も現会長

も大変喜ばせて頂いております。

さて、教祖140年祭に向かう三年千

日の活動の第2年目も残り40日程と

なりました。

先月の大教会秋季大祭には世話人

宮森与一郎先生がお入り込み下さり、

午後5時から1時間、おつとめの「お

てなおし」をして下さいました。

翌日の秋季大祭では、てをどりに

当たった奉仕者の皆さまは少し緊張

されたのではないかと思います。

祭典講話で宮森先生は

「私たちはチャンスを逃していない

かどうか。日々の中にきくと神様は

何かのチャンスを与えて下さってい

る。それを見逃していないかどうか、

よく考えて頂きたいのであります。」

とお話し下さいました。

このチャンスという言葉をしっか

りと心に納めて、句を逃さないよう

努めさせて頂きたいと思えました。

教祖は天保9年10月26日以来、「世

界一れつの子供達をたすけたい」と

の親神様の思召を、口で論し、筆に

誌し、またひながたの親として身を

もつてお教え下さいました。

その教祖が終始一貫急ぎ込まれた

のがつとめの完成であります。

おふでさきに

つとめさいちがはんよふになあた

なら 天のあたゑもちがう事なし

(十号34)

と仰せ下さっています。

私たちは朝夕におつとめを勤めさ

せて頂きます。また昼夜を問わずお

願いづとめを勤めさせて頂くことが

あります。

この教祖がお教え下されたおつと

めの重要なお道具として鳴物があり

ます。私たちは鳴物と言えば九つの

鳴物をすぐに思い浮かべることがで

きますが、鳴物についておふでさきに、

この事ハなへの事やとをもうなよ

つとめなりものはやくほしいで

(十四号85)

このつとめどふゆう事にをもうか

な なりもの入て人ちうのもよふ
(十五号52)

さあたるむなにをたのむとをもう
かな はやくなりものよせてけい
こふ (十五号72)

はやくとなりものなりとたしか
けよ つとめはかりをせへている
から (十五号90)

と仰せ下されております。

鳴物は、男鳴物として笛、ちゃん
ぼん、拍子木、太鼓、すりがね、小鼓。
女鳴物として琴、三味線、胡弓です。
私たちは教会で朝夕のおつとめを
勤めさせて頂くとき、ちょうど良い
速さがあると思います。

さらに毎月勤められる月次祭も、
座りづとめのお手、てをどり前半と
後半のおてふり、地方、九つの鳴物
がリズムよく勤められたときの素晴
らしさは、心勇む思いがいたします。
これこそ一手一つでなければ成り立
たないのではないかと思います。
一手一つのおつとめを勤めるため
には、まず「相手に合わせて勤める」
心が大切だと思えます。「俺に、私
に合わせろ」では決して勇んだおつ
とめにはなりません。

鳴物には、拍子を取る鳴物と、旋
律を奏でる鳴物があります。拍子を

合わせ、調子を合わせ、心を揃える
ことが大切であることは言うまでも
ありません。

逸話篇に次のお話があります。
「みかぐらうたのうち、てをどり、

の歌は、慶応三年正月にはじまり、
同八月に到る八カ月の間に、神様
が刻限々々に、お教え下されたも
のです。これが、世界へ一番最初

はじめ出したのであります。お手
振りは、満三年かかりました。教
祖は、三度まで教えて下さるので、

六人のうち三人立つ、三人は見て
る。教祖は、お手振りして教えて
下されました。そうして、こちら
が違つても、言つて下さりません。

『恥かかすようなものや。』
と、仰つしやつたそうです。そう
して、三度ずつお教え下されまし
て、三年かかりました。(後略)

(稿本天理教祖伝逸話篇一九「子供が羽根を」)

ここで教祖ご在世当時のてをどり
のお手つけの様子が記されている
「山田伊八郎伝」をご紹介させて頂き
ます。

「明治十五年八月二十七日(陰暦七月
十四位置)山田伊八郎、心勇組講元
は、講社の人々に、てをどりのお手
つけを頂きたく講師のご派遣を教祖

にお願ひ申し上げたところ、山本利
八先生をおつかわし下さいました。

尚、明治十六年に入つてからは山本
先生に続いてお越し下された講師は、
高井直吉、山澤、仲田各先生であり
ました。そしてこの先生達がやかま

しく、厳しくお仕込み下された共通
点は、おてふり、おつとめは理振り
である。手の指を離さないよう、特
に親指や小指を離さないよう充分注
意するようとのことであつたのであ
ります。」

私はこのお話を目にして以降、お
つとめを勤める際、指先にも神経を
いきわたらせ、指先が離れることの
ないよう心がけるようになりました。

今年7月の大教会月次祭祭文にお
いて大教会長様は「去る六月二十四
日御本部では三代真柱様中山善衛様
の十年祭が執り行われ、大勢の参拜
者に対して宮森与一郎先生から」教
祖百四十年祭に向けて三年千日の歩
みを進めるこのときにもう一度前真
柱様からお教え頂いた教えを胸に思
い起こし、今の真柱様にしっかりと
心を添えて年祭活動を確実にしっか
り進めさせて頂きたい」とのごあい
さつを賜り、幾多の御恩にお報いさ
せて頂けるよう固い決意の程をお誓

い申し上げる次第でございます」と
奏上されました。

私たちは教祖年祭活動は、たすけ
の句、成人の句とお聞かせ頂いてお
ります。

この句に教祖にお喜び頂けるよう
しっかりと歩ませて頂きましょう。
つとめさいちがはんよふになあた
なら 天のあたゑもちがう事なし
(十号34)

ご清聴ありがとうございました。
(文責・本島通信編集室)

大教会長動向

▼12月(予定)▲

- 3日、香川教区役職者会議
- 8日、本室分教会巡教
- 9日、本樺分教会巡教
- 10日、樺太分教会巡教
- 22日、大教会月次祭執行
- 23日、越乃國大教会参拜
- 24日、修養科総立ちまなび
- 25日、かなめ会委員会
- 26日、本部月次祭参拜
- 27日、かなめ会
- 30日、本部神殿奉仕当番

以上

事情はいづ

(立教187年11月26日)
霊峰分教会

建築模様替及神殿屋根葺替願

教会長 宮路和徳

臨時祭典願

鎮座祭 立教188年3月12日

奉告祭 立教188年3月13日

以上

おどげの理拝戴

(立教187年10月分)

本都 五味香織

本千代 今宮穂香

銀峰 河村春奈

【計3名】

教会長資格検定合格

(立教187年10月18日付)

本埼玉 根岸 巖

【計1名】

証拠守り下附

(立教187年10月分)

赤峰1、大松峰1 【計2名】

関東の集い

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では、11月2日午前10時より渋谷分教会を会場に「関東の集い」を開催。10代から60代まで45名が参加しました。青年会プログラム「問いと対話」で信仰的な思索を深め、親睦を深めました。



をびや許し

(立教187年10月分)

本樺 庄司 旭

本千代 吉田邦恵

本陽山 清水あや

本新郷 森重ちはる

吉松峰 宮崎淳美

ホリ化 NICOLE PARK

【計6名】

【大教会長】

タイ・インドネシア巡教

片山幹太大教会長は10月2日から9日にかけて、タイとインドネシアを巡教しました。(随行・井上周平)

タイのバンコクでは、天理教タイ出張所(野口信也所長)を参拝。チュラロンコン大学のウオラナン教授ご家族と面会しました。ウオラナン教授は片山俊次3代会長様が天理参考館長のとき、参考資料を集める上でご尽力くださった方です。面会には野口所長とソムチャイ氏(直属ようほく)の協力がありました。

インドネシアではバリ島布教所(中西寛明所長へ巡教。ラマツァー経営者のイスカンダル・マキコ氏と面会したほか、中西氏家族や天理大学別科日本語課程出身者が布教所に集い、7日におつとめを勤めました。



ご誕生おめでとう

岳陽祐くん(令和6年11月4日生まれ、大駿峰分教会)

向所桜さん

(令和6年11月25日生まれ、赤峰分教会)



ろくち会

(立教187年11月分)

▼本島△片山幹太・かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼崇徳分教会 ▼本高△菅岡新 ▼ポートランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次

ご芳志に厚くお礼申し上げます

統計 (10月1日~31日)

教会名	初席	中席	袋ひら	修養料	教人講習	検定講習
島中	1					
本都		1				
本千代			1			1
本埼玉			1			
本陽山	1					
本新郷	2					
赤峰		4				
雅倉	1					
吉松			1			
肥後		2				
銀峰		1				
鶴峰	1			1		
合計	6	9	3	0	0	1

会計部より

【会計部】

●立教188年お鏡料・御神酒料は一教会2,000円以上です。本年12月22日までに、大教会会計部へお納め下さい。

11月22日(金)

【香川県丸亀市】

天候 晴一時曇
 最低気温 9.7℃
 最高気温 19.5℃
 平均気圧 1017.6 hPa
 平均湿度 59%
 平均風速 3.0 m/s
 日照時間 5.6 時間
 降水量 0.0 mm

入社祭

(立教187年11月22日)

▼本九△出田扶美子 【計1名】

大教会からの お知らせ

11月22日教会長会議連絡事項

斯道会別席団参

【別席団参担当】

さあ、年祭活動仕上げの年
ご存命の教祖にお喜びいただこう

- 実施日：立教188年(2025年)
5月25日(日)、11月30日(日)

教会長夫妻おたすけ推進のつどい

【年祭活動実行委員会】

- 日時：立教188年1月25日(土)
午後1時より
- 場所：本島詰所4階講堂
- 対象者：教会長及びその配偶者、
直属教会長が認めた者
- 参加御供：一人500円
- 参加申込：1月20日まで大教会へ
申込書をご提出ください。
- ※詰所宿泊食事の申込みは、各自で
詰所事務所へご予約ください。

おやさとふしん青年会ひのきしん隊

【青年会本島分会】

- 隊期：立教188年1月11日(土)～
13日(祝)11日は家族入隊日です
- 宿泊：第百母屋(日帰り入隊も可能)
- 担当：伊東賢太郎
(080-8738-8349)

鼓笛隊北海道地区冬季合宿

【本島団鼓笛隊】

- 本島鼓笛隊第49回北海道地区冬季合宿
- 期間：1月11日(土)から13日(祝)
- 会場：本室分教会
- 派遣指導員：佐藤道子、奥村由多加

大教会月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 12月22日のライブ中継はござい
ません。来年1月22日春季大祭は実
施する予定です。

学修・大学の部

【本部学生担当委員会】

- 学生生徒修養会・大学の部
- 期間：令和7年3月4日(火)～
3月8日(土)(4泊5日)
- 受講対象：①令和6年12月25日現
在、大学・短期大学・大学院・専
門学校・高等専門学校(4年以上)に
在学している者。②全期間を通し
て受講できる者
- 申込期間：令和6年12月25日～
令和7年2月15日
- 受講御供：10,000円(当日まで詰所
に納めてください)
- 詳細につきましては、雲庵春彦
(090-2515-8039)、横関茂治
(090-1138-1690)までお問合
せください。

<https://www.honjima.com/>

学修・高校卒業生コース

【本部学生担当委員会】

- 学生生徒修養会・高校卒業生コース
- 期間：令和7年3月10日(月)～
3月12日(2泊3日)
- 受講対象：①令和6年度高等学校
卒業予定者。②全期間を通して受
講できる者
- 申込期間：令和6年12月25日～
令和7年2月15日
- 受講御供：5,000円

12月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

- 〈大教会・食堂ひのきしん〉
- 期間：12月21日～22日
- 派遣教会：本京
- 詰所・食堂ひのきしん
- 期間：12月25日～26日
- 派遣教会：本攝①、安藝本中①

布教部報告(11月分) 数字は本年の提出回数です

にをいがけ名簿提出教会(11月)			おさづけ取次報告教会(11月)		
本島 5	本千治 9	赤峰 11	本島 11	本千賀 9	赤峰 11
樺太 11	本千恵 4	雅峰 11	樺太 11	本千治 8	雅峰 11
本田中 6	本攝 11	吉峰 9	本田中 5	本千恵 5	吉峰 5
本倉岡 10	攝津 8	神峰 6	本倉岡 10	本平濱 8	神峰 4
本樺 11	攝肥 1	豪峰 11	本陸奥 1	本攝 11	豪峰 11
本室 8	フリッピン 3	倉峰 11	本樺 11	攝津 9	倉峰 11
渋谷 8	本太 4	大雄峰 8	本室 8	攝泉 11	大雄峰 9
代々木 8	本萩 11	雄福峰 11	渋谷 7	本太 11	雄福峰 11
本萬代 8	琴浦 7	雄山峰 6	代々木 8	本萩 11	雄山峰 9
本都 10	本福 2	栄森峰 9	本萬代 8	本岡 4	栄星峰 7
本京 11	安藝本中 7	栄星峰 9	本都 9	琴浦 3	栄東峰 8
本東 7	本備前 11	栄東峰 10	本京 11	本福 2	霊峰 10
本草 11	本迪 7	霊峰 10	本東 7	安藝本中 10	大隅聖峰 9
本護 8	本府中 11	大隅聖峰 10	本道盛 10	本備前 11	大松峰 10
本三 9	沖浦 11	大松峰 8	本草 11	本迪 7	大駿峰 11
本恵 11	本清水 6	大駿峰 10	本護 6	本府中 10	別峰 9
本恵明 11	崇徳 11	別峰 9	本三 9	沖浦 11	大英峰 10
本静濱 10	与島 10	吉松峰 1	本恵 11	本清水 8	肥後八峰 11
本静森 9	本高 7	大英峰 11	本恵山 9	崇徳 10	新信峰 10
本日米 11	阿波本徳 2	文峰 10	本恵明 11	与島 9	鶴峰 10
本浜 9	本九 11	鶴峰 9	本静濱 10	本高 11	都峰 10
本米 9	本小倉 3	都峰 11	本浜 10	本九 11	仙峰 11
本米里 11	本陽山 11	仙峰 11	本米 11	本小倉 6	マリーナ 1
本米浜 9	本肥港 6	マリーナ 1	本米里 11	本陽山 11	ミッドエスト 6
本千代 11	本千嘉 2	シータック 4	本米浜 11	本肥港 11	
本千賀 6	本新田 11		本千代 11	本新田 10	
計 77 教会 748 名			計 76 教会 2,224 回		